

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポートvol.09

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは9月4日、第9回のプログラムを開催しました。

今回は「リサーチ&ダイアログ」を実施し、受講生のみなさんがフードロスやSDGsに関する自社の取り組みをリサーチ&プレゼンしあいました。

◆タイムテーブル

- 08:45～09:00 開場(カメラオフ、ミュート)
- 09:00～09:15 オープニング、ちょっと長めのチェックイン
- 09:15～09:35 プレゼン1(4人1組)〈ブレイクアウトルーム〉
- 09:35～09:40 感想シェア
- 09:40～10:00 プレゼン2(組み替えます 4人1組)〈ブレイクアウトルーム〉
- 10:00～10:05 投票(誰のプレゼンを推薦するか 他薦による全体シェアのための投票) 10:05～
- 10:20 プレゼンテーションのシェア(3人)〈メインルーム〉
- 10:20～10:30 クロージング
- 10:30～10:45 雑談

◆ワーク内容

今回のプログラムでは、「4人1組のプレゼンテーション」を2回繰り返した後、全員にシェアするプレゼンテーションを他薦で決定しました。

最終的に紹介されたのは下記の事例でした。

●リテールシステムサービス

セブン-イレブンの「セブンカフェ」で年間約10億杯が出ていると言われるコーヒーのコーヒーかすをリサイクル。無臭元株式会社と消臭除菌剤を共同開発し、セブン-イレブン店舗のトイレ掃除に活用している。リテールシステムサービスでは、セブン-イレブンの廃棄物一元管理システム「エコ物流」を通してコーヒーかすを回収、無臭元へ届けて製造、出来上がった製品を店舗に納品している。

●サントリービール

2030年までにペットボトルを100%リサイクルするとともに、バイオマス原料に切り替えていく方針を立てている。サーキュラーエコノミーの実現に向けて「ペットボトル→別の商品」へのリサイクルではなく、ペットボトルをペットボトルへリサイクルするための技術開発を進めており、実際に「GREEN DA・KA・RA やさしい麦茶」ではすべての商品が100%リサイクル素材を使ったペットボトルになっている。他にも外部に向けて、水の大切さを伝える出張授業や体験プログラムを提供している。

●再春館製薬所

会社には「人間も自然の一部」という考え方がベースにあり、「自然のものは自然に返す」「もったいない」という精神が根付いている。社内では、裏紙の利用や、カラー印刷を必要最小限にとどめること、ゴミの分別を徹底している。また社内食堂では食べ残しをなくすためバイキング方式を採用、厨房でも「野菜の皮は出汁をとってから捨てる」「レモンの皮はとっておいて食器洗いに使う」など、食材をすぐに捨てるのではなく、何か使えないか一度考える意識が定着している。食べ残しも生ごみであればコンポストに入れて堆肥化させ、敷地内の畑に使っている。太陽光発電を取り入れたり、雨水をトイレに使ったり、夜間電力を有効活用したりしている。

◆受講生のレポートより

今回、総計9社のフードロス・SDGsへの取り組みをお聞きすることができましたが、各企業において「こんなことをしているのか」という新たな発見・気づきとなりました。また、普段は能動的に知ろうとはしない自社の取り組みについて、調査する良い機会となりました。自社でも数年前よりよくSDGsというワードが使われている一方、あまり自分ごとではなかったのですが、「食」という身近なことから環境等への影響を自分ごととして考えることができたと考えています。

各社の取り組みを聴くことで世の中にSDGsの考えが広まっていることを改めて実感しました。食品を取り扱わない会社の事業でも間接的にフードロスに関わっていることを知り、大変興味深かったです。一方、個人的にはコロナでスーパーへ買い出し回数を少なくしており、食材の買い過ぎによる廃棄をしてしまうこともあり、反省した次第です。

他の受講生のお話を伺い、他社の企業理念と社会貢献活動がつながっていると感じました。自身が所属している会社の方針や目標について日々情報がインプットされ、それを自身の目標に分解してきています。しかし、当たり前ですが、他社には他社のミッションや目的があり、そこから行われているアクションはそれぞれ違うんだと言うことに気づきました。

サプライチェーン全体でロスを削減、リサイクル、といったことを事業に直結して実施されている会社は非常に環境意識が高いと感じました。一方で、収益性とは違った側面としてインセンティブが働く、社会全体でのサポートがないと現場では財務目標とのバランスを取るのが大変だなとも感じます。地球の保護、子供達の将来のために世界規模の理念が浸透し、当たり前のように行動ができるように、今ビジネスをしている我々にも強く教育・学習が求められていると思います。

SDGsの課題の中から、各企業は企業理念、事業内容やステークホルダーに応じて、重点課題を定め真摯に取り組んでいることが分かりました。大隈塾はさまざまな企業からメンバーが参加しており、課題解決に向けた切り口も多様で他事業や他国での取り組み、課題は学びとなりました。共通していたのは、発表資料のベースに、プレスリリース、中期経営計画等を利用しているメンバーが多く、SDGsへの取り組みへの情報発信に各企業が力を入れており、積極的に開示していることが伝

わってきました。

=====
企業の取り組みは、あくまで枠組みであってそれに個々人がその目的に共感し参加していかないと効果は大きくなっていかないのだろうと思いました。さまざまな取り組みを知り、自分も参加しつつ、周囲を巻き込んでいきたいと改めて感じました。

=====
何かについてリサーチし自身でインプットすることは言わずもがな大事ですが、それをアウトプットすることもそれ以上に重要だと感じています。アウトプットをする上で、自分の中で一度整理をすることでより理解が深まりますし、また、ダイアログを通じて自分では気づけなかった視点や考えにつながる可能性があるからです。

=====
特定の課題について、複数人でリサーチすることにより、広くたくさんの結果を得られ、課題についての認識をより深められるということを学んだ。また、課題に対する着眼点についても自分で気が付かなかった視点で理解を深めることができた。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol9
2021年10月4日発行(通算79号)
大隈塾事務局(一般社団法人ストーンスープ)
古屋茉紀 yokukikumakiron@gmail.com

〒026-0002 岩手県釜石市大平町3-9-1
TEL:050-3558-7527
MAIL:ookuma_school@stonesoup.tokyo